

令和4年度 学力向上推進計画

南風原町立南風原小学校

1 目標

児童一人一人に学ぶ力を身につけて「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む

2 基本方針

- (1) 県の「学校教育における指導の努力点」として掲げている「確かな学力」の向上を踏まえ、「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上に焦点をあてた取組を推進する。
- (2) 沖縄県「学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」及び南風原町「かすりっ子『学ぶ』プロジェクト」に基づき、本校の特色を生かした計画を立てる。
- (3) 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」を構築し、学力向上に係る学校課題の解決を図る。
- (4) 学力向上の総括目標・推進目標の達成に向けて、児童の実態を十分把握した上で具体的な取組を推進する。
- (5) 児童一人一人の「確かな学力」の向上を図るため、日常的な共通実践事項を一層充実させると共に、校内研修を中心とした教師の指導力の向上・授業改善の取組を推進する。
- (6) 学校地域協働本部事業、保育園・幼稚園や中学校との連携を通して地域教育資源を活用した授業の工夫改善に取り組む。

3 取組構想

総括目標 : 児童一人一人に「生きる力」の基盤となる
「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育む
推進期間 : 令和2年度～令和6年度

成果指標 全国学力・学習状況調査および県学力到達度調査を指標として検証する。
 全教科において全国平均・県平均正答率以上の維持
 平均正答率30%未満の児童の割合及び無解答率の減少
 児童生徒質問紙における学習意欲等に関連する項目の数値の向上
 学校質問紙の「授業における基本事項」等に関連する事項の数値の向上

〔実態〕

◎全国学調において国語と算数の両教科が、全国の平均正答率を上回った。
 ◎国語と算数の記述問題での無解答率が低く、改善傾向にある。

推進目標

- ① R4年度の全国学力学習状況調査において、全国平均を上回る。
- ② R4年度県学力到達度調査において、実施する全学年で県平均正答率を上回る。
- ③ 学力調査無解答率を減少させる。

〔課題〕

△自分の考えを表現する力が不十分。
 △国語の記述問題に二極化の傾向が観られる。(下位児童への指導)
 △「話を聴く」ことを苦手とする児童が多い。

学びの質を高める授業改善・学校改善方策フレーム

方策	視点1：自己肯定感の高まり	視点2：学び・育ちの実感	視点3：組織的な関わり
方策1：日常化する 【質的授業改善】	<input type="checkbox"/> 個人内評価等の積極的取組 <input type="checkbox"/> 生徒指導のノウハウを活かした授業	<input type="checkbox"/> よい点や進捗の積極的評価 <input type="checkbox"/> 学んだことの意義や価値の実感	<input type="checkbox"/> 授業改善を推進する校内研究体制の充実
方策2：そろえる 【組織的共通実践】	<input type="checkbox"/> アセスメントによる実態認識をそろえる	<input type="checkbox"/> みとる視点・観点をそろえる	<input type="checkbox"/> ガイダンスとカリキュルの機能の充実
方策3：支える 【発達の支援】	<input type="checkbox"/> 支持的な風土をつくる学級経営	<input type="checkbox"/> 確かな児童理解	<input type="checkbox"/> 学びに向かう集団づくり
方策4：見通す 【学校組織マネジメント】	<input type="checkbox"/> 学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める <input type="checkbox"/> 「学力向上」と「生徒指導」を一体化した年間サイクル		
方策5：つなげる 【学校連携・地域連携】	<input type="checkbox"/> 市町村の特色を活かした施策推進による学校づくり <input type="checkbox"/> キャリア教育の視点をふまえた校種間連携強化 <input type="checkbox"/> 学校・地域・家庭のWIN・WINの互恵的関係の構築		